

❖科目名Course Title			
現代の科学と思想1b* (野外教育論)			
❖担当教員Instructor			
諫山 邦子			
❖開講学期Semester	前期	❖対象学年Year	2年生
❖履修可能人数Capacity	15 (遠隔) 5 (対面)	❖単位数Number of Credits	2
❖授業形態Type of Class			

講義と演習

❖キーワードKey Words			
野外教育 自然体験教育			
❖授業の目的Course Objectives			
わが国で行われている野外教育の理論と実践について一定の理解をする。批判的・論理的な思考を共有し、意見や思いを効果的に表現することができる。			
❖授業概要Course Description			
1回の授業構成は、①教員からの講義とクイズ、②個人発表とグループワーク、③授業の振り返り、となっています。また、教員からの講義や指導は必要最小限にし、受講生同士で学び合う協同学習が基本スタイルです。 毎回、授業時間外の学習（予習・復習）を用意しており、1つのトピックについて2週かけて学び、しっかりと身につけることができますようにしています。授業時間外の学習には、グループでの課題も含まれています。			
❖到達目標Course Goals			
1. 対立する意見・議論について、論理的・批判的に考えて説明することができる。 2. 議論やプレゼンテーション等を通じて、自分の意見を表現することができる。 3. 協同学習において、積極的にグループに貢献し自分の役割を果たすことができる。 4. 自ら学ぶ姿勢を身につけることができる。			
❖授業計画Course Schedule			
第1回：オリエンテーション（15回の内容、欠席や評価の基準、日程の確認、受講生の発表の分担） 第2回：野外教育の考えかた 第3回：野外教育の歴史 第4回：野外教育の効果 第5回：野外教育と組織キャンプ 第6回：冒険教育と環境教育 第7回：キャンプ療法 第8回：前半の小テスト 第9回：チャレンジベースドプログラム 第10回：自然を感じるプログラム 第11回：地域研究プログラム 第12回：創作・芸術活動 第13回：野外生活技術 第14回：学校での取り組み 第15回：まとめのテスト			
❖成績評価Grading System			
①授業中の課題と宿題、②授業後に学習ノート、③授業中の参加態度、④プレゼンテーションの成果、以上4種類の方法によって評価します。 到達目標1は、①と② 到達目標2は、③と④ 到達目標3は、①と③ 到達目標4は、②と④ 以上を主な評価基準とし、すべての目標を達成できた場合に単位を認めます。①、②、④は教員が点数をつけて返却し、③は受講生同士の相互評価を行います。詳細はオリエンテーションで説明します。			
❖テキストTextbooks			
星野他「野外教育の理論と実践」杏林書院 2011年			

❖参考書Reading List
授業中に適宜示します。
❖準備学習Homework
授業中に課題を指示しますが、予習・復習の時間が必要になります。毎回の初めの時間に小クイズを行って、予習の内容を確認します。
❖オフィスアワーOffice Hour
月曜日10:50～12:50（アポイントメントは必要ありません） 他大学の学生の場合、電話による質問を受け付けます（電話番号は初回授業で伝えます）。
❖連絡先（E-mail）E-mail
isayama.kuniko@k.hokkyodai.ac.jp
❖質問・相談への対応方法Contact Information
質問等がある場合は、メールを送ってください。メールを送る際は、送信者の氏名と所属大学を忘 れずに記入してください。また、TAにも遠慮せず質問してください。
❖履修上の注意Notes
必ず当該部分の学習をしてから、授業に臨んでください。各自の分担部分は事前にレジュメを添付と して前の週の土曜日午後4時までに送信ください。 また、5回以上欠席した場合は「不可」となりますので、気を付けてください。
❖備考Other Information
双方向遠隔授業システムにより受講する他大学の学生の皆さん、協力して良い学びを作り上げま しょう。

※「対象学年」と「単位数」は、科目提供大学における数字であり、受講大学に応じて異なるので、
所属大学で確認してください。

※「履修可能人数」は、科目提供大学以外的人数であり、遠隔と対面それぞれの受講形態で履修で
きる人数を示しています。(例.5(遠隔), 5(対面):遠隔授業で5名, 対面授業で5名まで履修可能。)

※北海道大学の対面授業は、教室の収容人数によって履修できない場合があります。